

1～3月の催し・教室スケジュール

▼企画展・イベントなど

- 開催中～2月12日(日)／
牧野富太郎生誕160年特別企画展「牧野博士と図鑑展」
- 2月4日(土)～26日(日)／第17回ラン展
「ようこそ！ランの園遊会へ～牧野博士からの招待状～」
- 3月4日(土)～5月14日(日)／第3回 植物図コンクール作品展
- 3月25日(土)・26日(日)／春の夜間開園
- 3月25日(土)～6月4日(日)／「春らんまん まきの花物語」

▼教室

- 1月15日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク
- 1月29日(日)／ふむふむ子ども教室
- 2月19日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク
- 3月11日(土)／シンビジウムの育て方教室
- 3月12日(日)／ハーブの教室
- 3月18日(土)／くらしの植物教室

- 毎月第2水曜日・第4日曜日 10:00～／草花を描く
- 毎月第2水曜日・第4日曜日 13:30～／ふれあい植物観察会

【教室・イベントの申込方法】

当園ホームページのイベント・植物教室ページ、またはFaxからお申し込みください。入園窓口でも直接お申し込みいただけます。

- 申込先 ホームページ www.makino.or.jp Fax 088-882-8635
- 申込開始日 開催前月の第1水曜日 9:00～(先着受付順)

▼マキノ・ボタニカルクラブ

- 1月21日(土)／牧野博士が描いたラン

【マキノ・ボタニカルクラブの申込方法】

当園ホームページのイベントの植物教室ページからお申し込みください。※電話・FAX・入園窓口での申込受付は行っていません。

- 申込先 ホームページ www.makino.or.jp
- 申込日 12月14日(水) 9:00～1月20日(金) 17:00
(先着受付順)

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後、企画展・イベント・教室などの日程や内容が変更または中止になる場合があります。最新情報はホームページなどでお知らせしますのでご確認ください。

Information

牧野植物園からのお知らせ

令和5年用年賀はがき高知県版は「高知県立牧野植物園と竹林寺」

11月1日(火)より全国で年賀はがきが販売開始となりました。令和5年用年賀はがき高知県版は208,000枚用意され、「高知県立牧野植物園と竹林寺」と題し温室や五台山竹林寺の五重塔が見える春らんまんの南園の景色がデザインされています。来春には牧野博士をモデルとした連続テレビ小説「らんまん」(NHK)が放送されます。年賀はがきを通じて高知県の魅力や牧野博士を多くの方に知っていただけるのではないのでしょうか。新年最初のご挨拶に、春の華やかな風景を添えた年賀はがきをぜひご活用ください。

(橋本渉)



Restaurant information

レストランからのお知らせ

レストランarbore

見た目にも華やかな野菜のグリルと、旨味を閉じ込めた自家製のラザニア。牛ひき肉のトマトソースとチーズの相性が抜群です。レストランにて令和5年1月末まで販売予定です。



彩り野菜のグリルと自家製ラザニアランチ
1,600円(税込)

観光周遊バス「MY遊バス」のご案内

- JR高知駅から牧野植物園までMY遊バスで約30分。
- MY遊バス乗車券を牧野植物園の窓口提示で、入園料が100円引き。
- 料金／【五台山券 (JR高知駅→竹林寺前)】
大人(中学生以上)600円 子ども(小学生)300円
- MY遊バスに関するお問い合わせ
運行について／とさでん交通(株) TEL 088-833-7171
乗車券について／(公財)高知県観光コンベンション協会 Tel 088-823-1434

高知県立牧野植物園ご利用案内

[開園時間] 9:00～17:00(最終入園16:30)

[休園日] 年末年始(12/27～1/1)

[メンテナンス休園日] R5/1/30、5/30、10/30、11/27、R6/1/29

[入園料] 一般730円(高校生以下無料)

団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円

※身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料

【交通案内】

はりまや橋から車で約20分。

高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分。

高知自動車道「高知JCT」経由、東部自動車道「高知南IC」から約15分。

高知龍馬空港から東部自動車道経由で約25分。

※道路案内板の「五台山」または「牧野植物園」「竹林寺」を目指してお越しください。

改修工事による駐車場大幅減のため植物園駐車場の混雑が予想されます。【高知新港臨時駐車場+シャトルバス(30分毎運行)】の利用にご協力をお願いいたします。 詳細情報▶



高知県立牧野植物園 友の会 会員募集

[特典] ※会員ご本人のみの特典です。

- ①窓口で会員カードを提示していただくと、入園料無料。
- ②「牧野植物園だより」(年4回発行)や、催し物案内を定期郵送します。
- ③牧野植物園が主催するイベントや教室に会員価格で参加できます。
- ④レストラン、ショップ利用時にカード提示で、5%の割引が受けられます。(現金のみ。カフェでは適用されません。書籍・植物・酒類は割引対象外となります。)

[会費] 普通会員/年額 4,000円 賛助会員/年額10,000円

[入会のお申し込み・お問い合わせ] 088-882-2601 友の会担当まで



牧野植物園ロゴマーク: バイカオウレンの葉

バイカオウレンは、早春に小さな白い花を咲かせます。高知では春一番を告げる花として、牧野富太郎博士が特に好んだといわれています。晩年東京で暮らした牧野博士にとって故郷を思わせる懐かしい植物でした。

高知県立牧野植物園だより No.91 令和4(2022)年12月20日発行

[編集・発行] 公益財団法人 高知県牧野記念財団

〒781-8125 高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園

Tel 088-882-2601 Fax 088-882-8635

[印刷] 有限会社 西村騰書堂

www.makino.or.jp



高知立 牧野植物園だより



バイカオウレン [キンボウゲ科]
Coptis quinquefolia Miq.

本州(福島県以西)・四国に分布する常緑多年草で、林内や林縁に生育する。牧野富太郎博士が「その小さい梅花様の白花が他の草に負け尚時候の寒いのに関わらず早くその葉の間に咲き綻びしその風情は決して忘る事の出来ない思い出の印」と故郷を懐かしんだ花として知られる。この葉をデザインしたものが当園のロゴマークである。

News

博士ゆかりの植物のブーケを手にした
神木隆之介さんと浜辺美波さん



「らんまん」神木隆之介さんと 浜辺美波さん来園

高知ロケ開始、当園で取材会開催

牧野富太郎博士をモデルにしたNHKの連続テレビ小説「らんまん」で主人公の榎野万太郎役を演じる神木隆之介さんとヒロイン寿恵子役の浜辺美波さんが10月21日(金)に高知を訪れました。高知県内でのロケは10月17日(月)にスタートし、お二人は牧野博士ゆかりの地である佐川町や越知町をめぐり、高知県庁で高知ロケのクランクインを報告した後、当園で取材に応じました。



取材会後、常設展示「牧野富太郎の生涯」を鑑賞

取材会は博士ゆかりの植物を植栽した

展示館中庭の前で行われ、報道13社総勢28人が集まり、お二人は満開の笑顔でドラマへの抱負を語りました。神木さんは博士について「聞けば聞くほどすごく憧れる」「優しさやエンターテイナーな部分、植物・草花に対しての繊細さはたまた豪快さを表現できるよう頑張ります」と目を輝かせ、浜辺さんは「神木さんと一緒に、毎朝をちょっと明るく笑顔をお届けできるよう、天真らんまんに撮影に励んでいきたい」と話されました。最後にドラマの制作統括 松川博敬さんが「毎朝見るのが楽しみになるようなドラマにしたい。チーム一丸となって走り始めている」とドラマへの意気込みを語りました。

取材会後、お二人は展示館 常設展示「牧野富太郎の生涯」と特別企画展「牧野博士と図鑑展」を鑑賞されました。

(楠山壽香)

News

草花活用支援事業の 開始

持続可能な草花観光支援に向けて

令和5(2023)年4月から牧野博士をモデルとしたNHKの連続テレビ小説「らんまん」の放送が決定し、高知県では牧野博士と博士を育んだ高知の自然をテーマに県観光を盛り上げようと、来春開幕予定の観光キャンペーンに向けて官民一体となって勇往邁進しています。



ガイド養成講座(座学)のようす

各自治体では地域ならではの植物や牧野博士と関わりのある植物を解説するガイドの育成、パンフレットや看板など案内ツールの制作、博士ゆかりの地整備のための保

全配慮や調査などが喫緊の課題となっていました。そこで、当園は高知県より「草花活用支援事業」を受託し、草花知識・植物ガイド専門チームを今年9月に発足させ、高知県や各自治体の事業に対する支援を開始しました。10月に当園で開催したガイド養成講座には約70名が参加し、その後も県内各地を巡回してより実践的なガイド研修のほか、各自治体からの要請を受けて企画への助言、植物リストの確認や調査支援などを進めています。

当園ではこの事業を一過性のものでなく、持続的な草花活用と位置付けており、この支援事業が終了した後も地域の人々が自発的に学び、考え、そして宝である各地域の野生植物の観光と保全の両立を継続できるよう、「育くむ支援」に取り組んでいきたいと考えています。

(藤井聖子)

ガイド養成講座
(実践)のようす



Info

第17回 ラン展「ようこそ！ランの園遊会へ ～牧野博士からの招待状～」

令和5(2023)年2月4日(土)から26日(日)まで、南園 温室にて恒例のラン展を開催します。今回は大正時代に宮中の宴のために牧野富太郎博士が和名をつけた洋ランにスポットを当て、皆さまが園遊会に招待されたかのような煌びやかな空間にご案内します。

今回の会場は、今までにない豪華な空間を演出し、カトレアの仲間にヒノデランと名付けた博士に敬意を表して日の出をイメージした「日ノ出の間」、ヒスイランと名付けたパンダの仲間は宝石をイメージした美しい「翡翠の間」、優美に蝶が舞っているようなコショウランの仲間は「胡蝶の間」とし、皆さまに冬のひとときを楽しんでいただける趣きとなっています。

この冬、豪華さの中にも優雅な雰囲気を感じられる当園の「ランの園遊会」へぜひ、お越しください。

(丹羽誠一)



Cattleya trianae (ハツヒノデラン)

Report

高知北ロータリークラブより ベンチが寄贈されました

五台山の地形を生かしてつくられた当園は起伏が多く、これまで来園者より散策の合間に一息つくことができるベンチを増やしてほしいといったご要望が寄せられていました。昨年2月にNHKの連続テレビ小説「らんまん」の制作が決定して以降、これまで以上にご注目いただき多くの方にご来園いただいております。ベンチの数を増やすことは急務となっていました。

今年8月に高知北ロータリークラブが創立40周年を迎えられた記念事業の一環として、当園に木製のベンチ8台を寄贈していただきました。これらのベンチは来春に新研究棟がオープンする南園に設置することとしました。多くの皆さまにご利用いただけるよう大切に使用させていただきます。

(濱口宗弘)

南園を中心に
園内各所に設置



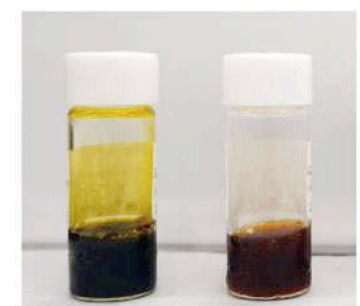
Report

株式会社アルビオンとの 共同研究を開始

当園は、植物の新たな有効利用法を見出す植物資源探索研究の一環として、株式会社アルビオン(以下、アルビオン)との共同研究契約を令和4(2022)年6月に締結しました。

アルビオンは高級化粧品に特化した国内大手の化粧品メーカーであり、世界各地より厳選した素材の活用や、世界自然遺産白神山の麓にある自社農場において豊かな自然環境を生かした有機農法による原料生産を行っています。今回の共同研究では、高い効果と独自性のある化粧品原料として利用することができる植物素材の開発を目指して研究を進めていきます。具体的には、牧野植物園においてさまざまな植物のエキスサンプルを作製し、アルビオンの保有する専門機器を使った成分分析や細胞を用いた肌に対する効果の検証を実施します。さらに、効果が認められた植物については栽培や増産方法を検討していく予定です。

共同研究に使用される植物エキスサンプル



(白河潤一)

Info

団体向け園内ガイド予約一時休止に 平日もインフォを設置ご案内します

当園では、全国各地から来園する団体の方々を対象にした事前予約制のガイドサービスを実施しています(2週間前までに要予約・無料)。

園の見どころや見ごろの植物、牧野富太郎博士の生涯や業績について15分～1時間で紹介するなど内容も時間もさまざま。

「植物園での滞在時間をより楽しめる」と好評をいただいていた園内ガイドですが、令和5(2023)年3月11日(土)～5月31日(水)までの期間は、ガイドサービスの予約受付を一時休止させていただきますこととなりました。同期間中は、本館付近にインフォメーションを設置して道案内からイベント情報の紹介、見ごろの植物などについてご来園の皆さまに植物園をより楽しんでいただけるようスタッフが常駐してご案内します。お気軽にお立ち寄りください。

(片山百合子)

本館インフォメーション 令和5(2023)年3月11日(土)～5月31日(水)
場所:本館ウッドデッキ(雨天時は五台山ロビー内)
開設日時:毎日 10:00～12:00/13:00～15:00
※場所や開設日時が変更になった場合は当園ホームページにてお知らせします



来園時にはぜひお立ち寄りください

Report

牧野富太郎生誕160年講演会
「愛すべき天才の情熱」の報告

植物分類学者 牧野富太郎博士の長編小説『ボタニカ』の著者朝井まかてさんを講師にお迎えし、6月4日(土)に講演会を開催しました。牧野博士の人間的魅力にはじまり江戸の園芸文化や『ボタニカ』の時代背景、さらには執筆時の舞台裏まで余すことなくお話しいただき、朝井さんの軽快な語り口にすっかり引き込まれ、あっという間に楽しい時間は過ぎ去りました。会場には遠く関西や関東からも足をお運びいただき、参加の皆さまからは「とても面白かった」「その話が聞きたかった」との声が数多く聞かれました。受付開始からすぐさま定員となり申し込みなかったという方もいらっしゃると思います。そこでこの講演会を、当園の公式YouTubeで期間限定で公開しています。映像では朝井さんが語る「富さん」の魅力の数々をお楽しみいただけます。詳しくは当園のホームページをご覧ください。



朝井まかて氏による講演会のようす

(村上有美)

Report

巡回展やトークセッションを開催
生誕160年記念事業盛況のうちに終了

佐川町、越知町と当園が参画する「牧野富太郎生誕160年事業実行委員会」では、牧野博士生誕160年を記念しさまざまな取り組みを実施しました。博士の誕生日4月24日(日)からスタートしたのは令和3(2021)年に募集した手紙コンクールに寄せられた310点から選ばれた12作品を紹介する巡回展「拝啓 牧野富太郎さんへの手紙」。博士の故郷・佐川町を皮切りに7月には当園で、10~11月末まで横倉山自然の森博物館で展示され、いよいよ来年2~3月末には晩年博士が暮らした練馬区立牧野記念庭園で約1年のゆかりの地巡回も最後の開催となります。また10月15日(土)には知られざる牧野富太郎をテーマにしたトークセッション「トミット」を開催。書籍『MAKINO』著者で高知新聞社記者の竹内一氏をファシリテーターに、牧野博士の曾孫・牧野一淳氏と当園から藤井専門員が登壇し初公開の秘蔵写真やエピソードを交えたトークで会場を沸かせました。



佐川町・桜座で開催されたトミットのようす

(片山百合子)

Report

建築家 内藤廣氏による講演

昨年に続き、(公社)高知県建築士会主催の第43回サマーセミナーが10月10日(月・祝)に当園の牧野富太郎記念館 展示館 階段広場にて開催されました。今回は牧野博士生誕160年に合わせ牧野富太郎記念館を設計した内藤廣氏が登壇し、ご本人が手がけた建物の中で講演を聴く貴重な機会となりました。県内の建築士や一般の方々約150人を前に、「建築それ自身にしか回収できない価値」のテーマのもと、「機能性」や「経済的価値」にとらわれない「建築そのものが生み出す価値」の重要性を語っていただきました。



内藤廣氏による講演のようす

講演では、牧野富太郎記念館設計時の図面などがふんだんに紹介され、当時の情熱や苦勞、現在の牧野植物園のランドスケープへの率直な想いといった貴重なお話のみならず、SDGsや木造建築ブームといった近年の建築業界を取り巻く風潮、緑化と都市計画の関係など多岐にわたる話題が上がり、参加者はみな熱心に耳を傾けていました。

(橋本渉)

News

アート絵本「まきのまきのレター」原画が
寄贈されました

牧野富太郎博士の人生を綴ったアート絵本「まきのまきのレター」の原画が、株式会社ENYSi(東京都港区、代表取締役 池田健氏)より濱田知事と当園に寄贈され、9月30日(金)に高知県庁にて贈呈式が行われました。イラストを担当した佐々木香菜子さんは「牧野博士のすてきな笑顔にこだわりながらも、ただ笑顔だけでなく、情熱のこもった目が醸しているものを表現するように気持ちを込めました。高知の皆さまに観ていただきたいし、全国の方にも高知に来て牧野博士を知っていただきたい。」と述べられ、池田さんも「原画は高知にあるべきと思いました。ぜひ高知の皆さまにご覧いただける場所に飾っていただきたい。」と話されました。



まきのまきのレター原画贈呈式

当園には、植物に囲まれた笑顔の牧野博士が印象的な作品が寄贈されました。現在は園長室に飾っていますが、今後皆さまにもご覧いただける場所に展示しようと計画中です。お楽しみに。

(楠山壽香)



第2回目 牧野富太郎生誕160年特別企画展「牧野博士と図鑑展」より

牧野文庫より見出された
『牧野日本植物図鑑』の原図たち

牧野富太郎博士が94年の生涯を捧げた植物研究と植物知識の教育普及の集大成が「牧野日本植物図鑑(以下、「牧野図鑑」)」です。起稿から昭和15(1940)年の刊行まで約10年の歳月をかけて編集され、初版には、種子植物やシダ植物、コケ植物、菌類、地衣類、藻類、全3,206種類が掲載されています。当園では、令和5(2023)年2月12日(日)まで、「牧野図鑑」刊行までの道のりを辿る特別企画展を開催しており、新たに牧野文庫で確認された「牧野図鑑」の原図78点を初公開しました。

背景

牧野博士の蔵書や植物図、遺品類を収蔵する牧野文庫には、「牧野図鑑」の原図は「ない」と聞き及んでいましたが、今年になって牧野文庫に「牧野図鑑」の原図があることが確認されました。原図は植物名のあいうえお順に封筒にまとめられていたことから、一旦整理されたのちに保管されていたのでしょう。これまでの調査の結果から145点が「牧野図鑑」の原図であることが判明しました。

牧野博士が描いた原図

「牧野図鑑」の初版本には、「牧野」と署名された図が182点あり、それらは「牧野図鑑」の前身である大正14(1925)年に出版された『日本植物図鑑』(北隆館刊)のために制作された植物図で、タテヤマギク一点のみが、唯一「牧野図鑑」初版本のために描かれた図です(牧野図鑑刊行80年記念出版編集委員会編 2020)。当園には牧野博士が描いた図は、ハナカタバミ、オニドコロ、ウワバミソウの3点が確認されました。オニドコロは『日本植物志図篇』に自ら描いた図を参考にして図鑑用に再構成されたものです。原図はより輪郭線がはっきり示され、限られた画面に種の特徴となる形態情報が盛り込まれています。



牧野博士が描いたハナカタバミの原図

信頼の画家らが描いた原図

初版本の序には、水島南平氏、山田壽雄氏、木本幸之助氏3人の画家への「牧野図鑑」の原図制作への謝辞が記されています。山田氏は、牧野博士がもっとも信頼を寄せていた画家として知られ、博士が精魂を込めた「大日本植物志」のモクレイシと

オオヤマザクラの図を共同で描いています。当園にあった山田氏の「牧野図鑑」の原図には、メダケやチマキザサなどのササ・タケ類のほかスハマソウやヒグルマダリヤなどがありました。水島氏は、「牧野図鑑」の図をもっとも多く描いた画家です。その図は第7版改訂版[昭和24(1949)年]や第9版改訂版[昭和26(1951)年]に増補されたものなどが遺されており、シキミ、コブシ、ビロードムラサキ、ジュズダマやセイヨウタンポポなどあらゆる分類群が確認されました。

差し替えられた原図

「牧野図鑑」の前身である『日本植物図鑑』で描かれた図がそのまま「牧野図鑑」初版に転用されたものの、第7版改訂版で差し替えられた図が数多く遺されていました。本来、原図は出版元に保管されていますが、牧野博士の手元にあったことから、最後まで「牧野図鑑」の改訂に注力したことがうかがえます。「弘法にも筆の誤り」で、厳しい校閲をすり抜けてしまった5枚の花被片が描かれたニワゼキショウは、改訂版ではホワイト修正液で訂正がなされ6枚に書き直された図に差し替えられました。初版の図に朱字でバツ印が付けられている図や改出来と書かれている図などが、改訂版で差し替えられており、牧野博士の飽くなき探究心と、正しくより優れた情報をわかりやすく伝えようとする博士の一貫した姿勢が見受けられます。

牧野文庫にはこのようにまだまだ解明されていない資料も含まれており、全資料の目録化は当園の喫緊の課題であると考えています。(藤川和美)



改訂版で書き直されたニワゼキショウの原図



ショウキラン(ショウキスイセン)の初版原図



牧野博士による朱字校正



ショウキラン(ショウキスイセン)差し替え図

見ごろの
花だより

Vol.42
Flowers in season

ホウサイ

[ラン科]

Cymbidium sinense (Andrews) Willd.

ホウサイの和名は旧暦の正月(2月ごろ)に開花し歳を報せることに、学名の種小名は産地の1つである中国にちなみます。分布は広く、屋久島、沖縄、台湾、中国〜ヒマラヤ地域の亜熱帯の常緑樹林下に生育します。

カンランと同様に、ホウサイは多くの園芸品種が見いだされ、日本では広葉恵蘭と呼ばれる東洋蘭として知られています。葉は幅広で艶があり、立ち気味のため鉢植え映えし、斑の鑑賞に適します。斑だけでなく、花色の変異、奇形花なども選抜され珍重されています。香り良い花は紫褐色〜淡黄色で、直立する花茎に5〜26花つけます。とくに台湾では愛好家が多く、「蘭」といえばホウサイのことを指します。高知県下での「蘭」がカンランを指すように、台湾でのホウサイは象徴的なラン科植物である

ホウサイ'金鳳錦'



ことがわかります。ちなみに恵蘭とは多花性のホウサイ、スルガラン、ヘツカランの斑入り選抜個体を指します。スルガランとヘツカランは葉幅が狭く、細葉恵蘭と呼ばれ区別します。カンラン、イッケイキュウカ、キンリョウヘンなども多花性で斑入りの個体が選抜されていますが、慣習として恵蘭には含めないそうです。

土佐寒蘭センターや温室のラン展で開花期を迎えたホウサイを展示していますので、ぜひお立ち寄りください。

(矢部幸太)

園地のできごと

Vol.42
The gardening
section's news

台風14号による 園地の被害



重機を使った被害木の処置

日本全国に大きな影響をもたらした台風14号は、9月19日(月・祝)に高知県に最接近し、当園も大きな被害がありました。回廊の日よけが飛ばされ、連絡道のトビカズラを支えていた枝が折れてしまったことに加え、南園での植栽樹木の被害が特に甚大でした。当園のシンボルツリーの一つになっているアキノレの主枝の一つが折れ、さらに50周年記念庭園の東屋横にある樹高20m、根元周60cmを超えるセコイアの大木が大きく傾き、その影響で後方にある別のセコイアの太い幹が1本折れてしまいました。傾いたセコイアは根元から割れており、伐採せざるを得ませんでした。被害木の剪定や伐採作業には高所作業車や大型クレーンを使用しました。

今回被害にあったセコイアは、開園50周年を記念し、募られた寄附によって植樹されたものです。やむなく伐採したセコイアは、2ヶ月後の11月20日(日)に新しい芽が出てきました。ご支援いただいた方々には、この場を借りましてお詫びとご報告を申し上げます。これからこの芽を大切に育てていきます。(中野善廣)

植物の
「なぜ?」

Vol.42
Plants' Q and A

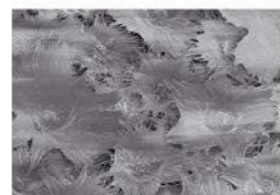
Q | 植物の葉についている小さな毛は
どんなはたらきがあるの?

A | 植物の体を植食者や環境から守っています。

植物の小さな毛は葉だけではなく、茎や花、果実にも生えています。植物がもつ毛のかたちにはいろいろなものがあります。例えば、写真左のナワシログミでは葉の裏を見ると鱗片状の毛がびっしりとついています。真ん中のコモンセージでは葉には真っ直ぐな毛があり、写真右のピロードムラサキの葉の裏には枝分かれをしている毛がたくさんついています。ピロードムラサキの葉を触るとふわふわとした感触があるのはこれらの毛のためです。

このようにさまざまなかたちや大きさをもつ毛は、昆虫などの体のサイズが小さな植食者から植物の体をまもるはたらきがあると考えられています。さらに乾燥や紫外線、低温といった環境からも守る

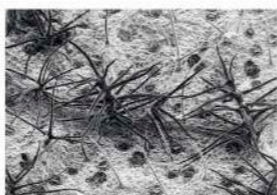
はたらきがあるともいわれています。また、毛の中には植物がつくり出す化学物質をためて、分泌するはたらきのあるものがあります。そのような毛は腺毛といって、毛の先に球状のようなものがついてかたちが違います。例えば、モチツツジなどさわってベトベトとするのは、そのような毛のはたらきによります。



ナワシログミ 250倍



コモンセージ 500倍



ピロードムラサキ 300倍

また、イラクサを触った時に強い痛みを起すのも、触れた時に毛から飛び出してくる化学物質に触れるからです。一方、大きな動物から植物を守るためにはバラの仲間の棘状の突起やサボテンの針のように変化した葉など、比較的大きなサイズのものが効果的だと考えられています。植物がもつ小さな毛は動物からの食害を完璧に防ぐことはできませんが、植物の知恵には驚かされます。

植物がもつ毛は小さくて虫眼鏡でやっと見えるぐらいですが、いろいろな植物がもつ毛を観察してみるとどのような生活をしているかを知ることができるでしょう。

(瀬尾明弘)

身近な植物を
知る

Vol.45
Plants close to us

スギナ

[トクサ科]

Equisetum arvense L.

スギナという言葉を知って、皆さんはどんな印象を持たれるでしょうか?スギナはトクサ科トクサ属の植物で栄養茎をスギナ、胞子茎をツクシ(土筆、筆頭菜)と呼び分けています。ツクシはてっぺんに胞子を含んだ穂(胞子のう穂)がついていて、そこから根元までいくつかの節があり、その節の周りに袴と呼ばれる茶色い葉がついています。袴を取り除き灰汁抜きをしたものは、春の食材として卵とじ・佃煮・お浸しなどにして古くより親しまれてきました。また、ツクシのあとに伸びてくるスギナは、地上部を5〜7月に刈取り、水洗・乾燥させたものを生薬「問荆」として利尿・去痰などを目的に使用されてきました。

庭や畑では難防除雑草として、とても嫌われる植物ですが、食用や薬用資源に利用されてきた大切な植物でもあります。見方一つで大きく印象が変わる植物ですね。(末岡昭宣)



ツクシ



スギナ

Staff's recommendation

スタッフに聞く!
植物園の見どころ Vol.45

栽培技術課
片岡奈々のおすすめ

温室内常設 洋ラン展示

当園の洋ラン展示と言えば、毎年2月開催のラン展を思い浮かべる方が多いと思います。実はラン展開催期間以外に、常に洋ランを展示している場所があることをご存じでしょうか。温室の乾燥地エリア付近にある展示スペースには、四季を通じて見ごろを迎えた洋ランが登場します。

整った大輪の美花を咲かせる交配種や、送粉者に合わせて進化した巧みな形の花を咲かせる野生種など、多種多様な姿を堪能できます。清澄で上品な芳香、お菓子を想起させる甘い香りを放つ種も展示するため、五感で楽しめることも魅力です。悪臭を放つ種をあえて展示することもあります。

ひときわ華やかな美花が好みの方には、ハワイ産交配カトレアの盛りで展示鉢数が最も多い晩秋から早春が特におすすめです。珍妙なかたちの花に出会いたい方は、バケツランやスタンホヘア属、ゴンゴラ属などが姿を見せる初夏にご来訪いただけたらと思います。

随時入れ替えながら展示をしています。来るたびに新たな洋ランが見られるでしょう。ご来園の際はぜひお立ち寄りください。



12月の展示スペース